耕心 ～夢追いかけて～

佐世保市立吉井中学校
学校だより　第１３号
文責　校長　川　口　貴　晴
令和２年６月４日(木)発行

【学校教育目標】自ら生きる力を培う生徒の育成
【めざす学校像】生徒一人ひとりの夢と志を育む学校
【一徳運動】「みそあじ運動（みなり・そうじ・あいさつ・じかん）」

「いのちの講話」を行いました

６月１日は、「いのちを見つめる日」でした。校長講話では、以下の概要のような話を生徒にしました。生徒は、いつも以上に神妙な顔で、しっかり聞いていました（感想からそう実感できました）。最後に、全員で黙とうをして講話を終了しました。

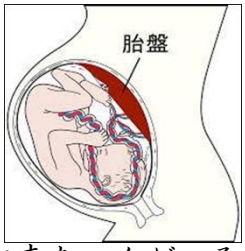
以下に、今回の「いのちの講話」の内容を抜粋します。

「今ある命に感謝！」～校長講話の概要～

今日の話は「命」についてです。

この写真は何の写真ですか。問題１：ウミガメの寿命は何年くらいでしょうか。種類にもよりますが、50年～100年程度です。このウミガメは卵を産むために海から砂浜（陸）に進んでいきます。水の中では、飛ぶように泳いでいるウミガメも、陸地を歩くことは苦労します。つまり大変な危険を冒して陸地に上がってくるのです。問題２ウミガメは一度に何個の卵を産むでしょうか？これも種類によって違いがありますが、だいたい150個ほどです。そして卵からかえった子ガメは砂浜から海をめざしていきます。問題３：ウミガメが１５０個の卵を産んだとします。では、その卵から死なずにきちんと育っていくのは何匹くらいだと思いますか。①全部（１５０匹）、②５０匹、③１匹、④０匹、つまり全滅。実はたった１個（１匹）ぐらいと言われています。温度が低くて卵がかえらなかったり、運よく卵からかえっても、多くの子ガメは海にたどり着く前に、外敵に食べられたり、お腹がすいて干からびて死んだりしていきます。やっとの思いで海にたどり着いた子ガメも、えさを探せなかったり外敵に襲われたりします。生存率は、５０００匹に１匹の割合だともいわれています。これはウミガメだけではありません。鮭という魚も、３０００個の卵を産んでも、生き残るのはだいたい２個だそうです。

それでは人間はどうでしょう。お母さんのお腹の中に命が芽生えると、赤ちゃんは、お母さんのお腹の中で、しばらく食べ物（栄養）を送られたり、外からバイ菌が入らないように守られたりして大切に育てられていきます。さて、ここで問題４：赤ちゃんとお母さんをつないで栄養などを送っていた体の一部が今でも体に残っています。それはどこでしょう。



おへそです。お母さんは、お腹に赤ちゃんがいるとわかった時から、お酒やコーヒーなどを飲むのをやめたり、タバコをやめたり、自分が病気にかかっても薬を控えたり、さまざまな我慢や気を遣いながらお腹の中にいる赤ちゃん（つまりあなたたち）を大切に大切に育てていくのです。そして時々病院に行って、ちゃんと育っているか、お腹の中が見える写真で確認します。その写真がこれです。家にはこんな写真があると思います。見せてもらったらいいですね。最近は、技術が進んで、カラー写真や赤ちゃんのリアルな映像が映せる機械もあります。個人差はありますが、だいたい９ヶ月ぐらいの間、お母さんはお腹の中で命を守っています。改めてお母さんに対して、感謝してほしいと思います。

そしてやっと生まれたら、こんな人になってほしいという親のねがいが込められた名前が付けられます。私の名前は貴晴です。親の「晴れ晴れとした立派な人になれ」、という願いからつけられました。また、私自身も自分の子どもには、一生懸命願いを込めて名付けました。だから、親の思いのこもった誰かの名前を馬鹿にするようなことは絶対にあってはならないのです。もし、そういうことをしている人がいたら、今日この場からやめてください。また、みなさんの名前や兄弟・姉妹はどんな思いでつけられたのか、担任の先生の名前はどんな願いでつけられたのか、後で聞いてみてください。

こうしてみなさんは、外敵に襲われることもなく、今ここに１２年から１５年間生きています。しかしウミガメのほどではありませんが、人間で

も少なからず、お腹の中で死んでしまったり、生まれてからしばらくして死んだりする人もいるのです。

これは、加藤秋雪くんと言って、生きていれば今２８歳校長先生の娘と同じ歳の男の子のお母さんが書いた本です。秋雪くんは、生まれながらに心臓に重度の疾患とダウン症という染色体異常があり、わずか１年しか生きられないと医者に宣告されました。それからというもの、お母さんは、泣くと心臓に負担がかかるということでなるべく泣かせないようにと夜中ずっとずっと抱っこし続けたり、ウイルスや菌が寿命を縮めるということで、絶対に風邪をひかせないように、けがをさせないように、虫歯にならせないようにと寝る間を惜しんで、付きっきりで育てていったそうです。両親の願いと懸命な育児で、何と奇跡的に６年間も生き続けました。しかし、小学校入学を前に天に召されてしまいました。今から、あなたたちには映像を見てもらいます。これは、秋雪くんのご両親があるテレビＣＭに応募して、採用されたもので、日本中で大反響を巻き起こし、続編がつくられたほどです。どうぞ、この映像を見て生きることの大切さや尊さを感じてください。

最後に生まれて３日間でなくなった赤ちゃんのお母さんが書いた手紙の一部を紹介します。

「いっぱい抱っこしたかった。大きくなった娘を見守りたかった。時には親子げんかをしてみたかった。娘より先に死にたかった。娘が教えてくれたこと。生きる。精一杯息をする。今、普通に生きていることの奇跡を教えてくれた。悩みや苦労、それさえも幸せかもしれない。人生とはその日をどれだけ一生懸命生きるか。今の幸せに気づかせてくれた。３日間の生涯でいろんなことを教えてくれた。」

生きていることを当然と思わず、今ここに生きていることに感謝し、自分の命、そして誰かの命を大切にして、優しい言葉遣いを人にしたり、困っている人がいたら声をかけたり、いじめをしている人がいたら注意してあげたりするなど、毎日を一生懸命生きていってほしいと思います。

もう一度繰り返します。

自分のいのちを大切にしてほしい。

誰かのいのちを大切にしてほしい。

あなたを大事に思っている人よりも「１日でも長く、１秒でも長く生きる」それが最大の孝行です。

最後に、16 年前に起こった悲しい出来事で被害にあわれた御手洗さんのご冥福を祈って全員で黙とうをしました。

「いのちの講話」の感想から

○ぼくは、今日の命の講話で、あらためて全ての命を大切にしようと思いました。ぼくのお母さんは障がい者施設で働いていて、時々小さい子が亡くなったとすごくショックで帰って来る時があります。ぼくもその話を聞いただけで本当に悲しい気持ちになります。だから、ハンデをもった人も、小さな生き物すべてを大事にしてほしいと思いました。これからも自分の命、みんなの命を大事にして生きていきたいと思いました。（１年生）

○私は、「いのちの講話」を聴いて、今までの人生を振り返ってみました。私は、自分の名前なんて何の意味もないと思いました。また、下の名前が少し気になって、恥ずかしい気持ちになることもありました。だけど、今日のことから、私が生まれてきたとき、親はとても嬉しかったんだな、どんな子になるのかなと楽しみにしていたんだと改めて思いました。「●●●という名前が何の意味もこもっていない」という考えに、私は「親に申し訳ないな」と思いました。この 13 年間、私を育ててくれた親に感謝しています。この、いのちの日は決して忘れません。（１年生）

○今日の講話を聴いて、今、私たちは「生きる」ということを普通に当たり前のようにしているけど、世の中には、生きたくても生きられない人たちがいることを改めて知りました。今の自分は、生きてることに感謝せず、ただ日々を過ごすだけでした。そして、時には危険なことをしたりしていました。でも、「生きている」って本当にすごいことで、奇跡なんだなってわかりました。だから、今生きている１日１日に思いを込めて、大切に過ごしたいと思います。これからぶつかるであろうたくさんの壁も乗り越えて、楽しい人生にしていこうと思いました。（２年生）

○「いのちの講話」を聴いて、自分や周りの人が今生きていることは、当たり前じゃないんだと思いました。生まれてすぐに亡くなってしまったり、病気が見つかったりして、大変な思いをしている人がたくさんいて、生きていることに感謝しなければならないと思いました。そして、私にできることは、まず自分が生きて周りの人と仲良くすることだなと思いました。そんな小さなことしかできないけれど、それで、少しでも多くの命が助かるなら、私はするべきだと思います。これからは、自分の命も周りの人の命も、今以上に大切にしていきたいと思います。校長先生のお話を他人事だと思わず、しっかり受け止めたいです。（２年生）

※素晴らしい感想ばかりです。次号に続きます。